



戦国大名の経済的拠点

3年 組 番()

- 以下の史料は、織田信長が拠点としていた安土で出した楽市・楽座令である。

- 一、安土に対して楽市を命じたので、いろいろな座の特権などはすべて廃止する。
- 一、往来する商人は、上街道ではなく下街道を通り(安土に通じる道を通り)、この町に宿泊せよ。
- 一、伝馬役は免除する。
- 一、他国からやって来て、ここに住み着いた商人は、前から住んでいた者とすべて同様である。
- 一、(中略)
- 一、馬の売買商人について、領国中の馬の売買はすべてこの場所で行うこと

問1 史料からどんなことがわかりますか？

戦国大名は、自身の領国経営のために、経済政策に力を入れていた。商人らを通じて、馬・鉄砲・兵糧などの軍備品を購入するためである。また自国の特産物の移動や換金化を図るために、商人を通じて、遠隔地との取引も積極的に行った。

そのため戦国大名の中には、積極的に交通網の整備などを行う者もいた。また、城を街道や河川、港の近くに築いたり、商人の自由な取引を認める楽市・楽座を行って、城下に商人を呼び寄せたりするなどして経済政策を行う者もいた。

問2 上記の説明を参考に、戦国大名の経済的拠点としてはA～Eの場所の中ではどこが適していると考えますか？(複数可)

選んだ場所

〈 選んだ理由 〉